経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ALPS処理水の処分に関する
安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集　２０２４年１０月

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

販促・魅力発信

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

三陸・常磐産品の魅力や安全性について発信する取組

- ALPS処理水に関する風評を抑制・払拭することに加え、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興や持続的な発展を後押しするため、経済産業省、復興庁、農林水産省にて、2022年12月20日に**「魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク」**を立ち上げ。
  （2024年10月25日時点で、**1,192者もの企業、自治体等が参加**）
- **2024年10月１日から11月４日まで**を、**「三陸・常磐ウィークス（第４弾）」**と称し、ネットワーク参加企業等による社食や弁当の購入等を通じた**「三陸・常磐もの」の消費拡大に向けた取り組みを推進**。
  ※なお、これまでに３回、「三陸・常磐ウィークス」を開催し、合計で約212万食の「三陸・常磐もの」を提供。

「三陸・常磐ウィークス（第４弾）」における取組

- 経済産業省は「三陸・常磐もの」を積極的に応援。**武藤経産大臣や竹内経産政務官も「三陸・常磐もの」を使用したお弁当を食べてその魅力をPR**。

- **政府全体としても、期間中にお弁当の購入や、キッチンカーでの購入など**を通じて、「三陸・常磐もの」の積極的な消費に向け、一丸となって取り組んだ。

- **ネットワーク参加企業等においても、お弁当の購入や、社食での提供、マルシェの開催など**、「三陸・常磐もの」の消費拡大に向けた取り組みを実施。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

三陸・常磐地域の水産品・水産加工品の魅力や安全性について発信

- 令和6年10月5日（土）から計4回、「親子で参加♪宮城の海を味わう！料理教室」を開催している。
  ※開催日：10月5日（土）、19日（土）、11月2日（土）、23日（土）
- 「お子様もおいしく食べられる」をテーマとし、新鮮な宮城県産の海産物を使用した家庭でも手軽に実践できる料理を、お子様と一緒に作る料理教室イベント。
- 水産庁公認の「お魚かたりべ」を講師に迎え、宮城県産の水産物の美味しさを子育て世代へPRするとともに、水産物の販路・消費拡大を図っている。

料理教室の様子

今年度のメニュー

メカブのかき玉スープ

銀鮭のコーン焼き

台湾風牡蠣おこわ

講師紹介

酒井　敬一　先生
宮城県水産業振興課で魚食普及を担当している水産技術職。
魚料理を教える料理教室をボランティアで20年やってきた実績が認められ、水産庁の「お魚かたりべ」に認定。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

福島相双復興推進機構の取組事例①

- 10月5、6日の2日間、ビッグパレットふくしま（郡山市）で開催された**「みんなでワクワク！KFBまつり2024」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。**
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした**福島県の水産加工業者等11事業者の商品約40品を販売。**また、中澤水産の平目と生海苔の海鮮ぶっかけ丼、岩下商店のいか人参風 お手軽ちぎり揚げ等の試食を実施。
- 開催期間中はテレビでの生中継が入ったこともあり、毎日多くの来場者があった。売れ行きも好調であった。また、ステージイベント等他目的で来場した方にも足を止めていただき、ご購入される方も多数見られた。

ふくしま常磐大漁市 in KFBまつり

会場の様子①

会場の様子②

試食の様子

■　来場者の声

「常磐ものは美味しいので積極的に買いたいと思っている。近くのスーパーとかには出回っていないものがここで買えてよかった。」「テレビを見てタコを買いに来た。」

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

福島相双復興推進機構の取組事例②

- 10月13日、道の駅あいづ 湯川・会津坂下（福島県湯川村）にて「相馬原釜魚市場まつり in 会津出張版」を相馬双葉漁業協同組合が開催。相双機構も開催を支援。
- 本イベントは、相馬産の魚介類をなかなか手にすることができない会津地方の方にその魅力を知ってもらうために開催。当日は、**魚のつかみ取り、相馬産魚介類の振る舞いや販売会、福島市の人気カレー店「笑夢（えむ）」とのコラボで完成した、相馬産のあおさ海苔やしらすを活用したカレーの試食提供等が行われた。**
- 当日は多くの来場者があった。「魚のつかみ取り」では整理券は早々に配布を終了し、ご家族連れで楽しむ姿が多く見られた。
- この後、**11月23日（土）には、地元の相馬原釜漁港にて同様のイベントを開催予定。**

相馬原釜魚市場まつり in 会津出張版

魚のつかみ取り

相馬産魚介類の販売会

試食提供された「常磐もの青のりとしらすのスパイスカレー」（イメージ）

■　来場者の声

相馬産魚介類の振る舞い（メヒカリ唐揚げ、ヒラメフライ）やカレーの提供も好評で「メヒカリは脂が乗っていて美味しい。」「ヒラメをフライで食べたのは初めて。」「カレーは青のりやしらすの風味が効いている。」等の感想をいただいた。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

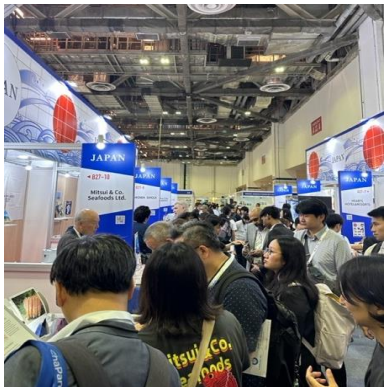
日本貿易振興機構（JETRO）の取組事例①

- 2024年9月4～6日、**東南アジア最大級の水産専門見本市「Seafood Expo Asia2024」にジャパンパビリオンを設置（宮城県2社を始め33社が出展）**。
- 同見本市にはシンガポールに加え、ASEAN周辺国をはじめとする海外バイヤーが来場し、ジャパンパビリオンはバイヤーで特に賑わう様子が見られ、**日本からの出品者との間で300件以上の商談が行われた。**
- 会場内キッチンスタジオにおいて、現地で影響力を有する有名シェフ3名の協力の下、**日本産水産物を使ったオリジナルメニューを披露する調理デモを開催するプロモーションイベントを実施した。**

「Seafood Expo Asia 2024」（シンガポール）におけるジャパンパビリオン設置とPRイベント実施

■「Seafood Expo Asia 2024」（シンガポール）におけるジャパンパビリオン概要
・出品者数33社、うち宮城県企業2社（主な出品物：かつおたたき、かまぼこ等）
・商談件数300件以上
（出品者意見）
・実際の商品を試食も行いリアルで説明したことで、バイヤーに大きさ等の質を認識してもらうことができた。
・インドネシア・マレーシア等、多くの国の顧客と知り合えた。タイからの引き合いもあり、出展した価値はあった（同様の意見複数）。

■PRイベント概要
・シンガポールシェフ協会会長など、シンガポールで影響力を有する有名シェフ3名が、日本産水産物を活用したローカルレシピを披露、レストラン関係者や輸入事業者等に対して調理方法の紹介や試食提供を実施（計3回）。
・イベントにより日本産水産物と、同会場内に設けられたジャパンパビリオンをPRした。
・現地輸入事業者、レストラン関係者等延べ約100社、200名以上が参加。
（参加者意見）
・調理デモを通じ日本産水産物をシンガポール料理に使うイメージが湧き、日本産水産物への興味が湧いた。
・日本産海産物の活用方法は寿司のみの視点しかなかったが、イベントを通じ、魚の部位などこれまでとは異なるた使い方ができることがわかった。



＜ジャパンパビリオンの様子＞

＜ホタテ料理＞

＜クッキングデモ風景＞

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日本貿易振興機構（JETRO）の取組事例②

- 10月10日（木）～10月23日（水）の日程で、JAPAN MALL事業（海外におけるEC販売プロジェクト） の一環として、**欧州15カ国以上に水産物の販路を有する、オランダの「Hokkai Suisan」社のマリナス・ノーデンボスCEOを、福島県に招へいした**。
- 10月11日、**マリナスCEOは福島県庁を訪問、内堀知事より「国際交流親善大使認証書」を受領**した。
- 同社は、東日本大震災後、ジェトロの事業等を通じ、福島県産水産物の欧州向け輸出に貢献、2024年7月の知事の欧州訪問時の訪問団受け入れなど、福島県との関係を深めてきた結果、親善大使への任命に至ったもの。
- 同日にはあおさ等を取り扱う福島県企業との間で、あおさ加工食品の商品開発と欧州向け輸出に関する商談を実施した。

オランダの「Hokkai Suisan」社のマリナス・ノーデンボスCEOの福島県への招へい

国際交流親善大使認証書授与の様子

県内企業との商談の様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

中小企業基盤整備機構の取組事例

- 10月3日に中小企業の経営者・後継者、支援機関等を対象とした研修施設である**中小企業大学校仙台校において、食堂メニューに「三陸復興支援メニュー」を28食提供した。**
- 10月21日に中小企業基盤整備機構において、部署横断によるランチ会を開催。**三陸・常磐ものネットワークに参画する業者が販売する弁当を購入し、総員48名へ提供した。**

10月3日(木)三陸復興支援メニューの提供

◀提供されたメニュー

メニューに
使用されている ▶
食材の各仕入れルート

(株)ニッコクトラストと
中小機構が共同で実施

メニュー	仕入れルート
①まぐろカツのエスカベッシュ	宮城県気仙沼市（マグロ）
②フカヒレスープ	宮城県気仙沼市（フカヒレ）
③帆立飯	青森県陸奥（ホタテ）
④茎わかめのツナ和え豆腐添え	三陸沿岸（茎ワカメ）

10月21日(月)ランチ会の様子

▲本取組の趣旨説明を聞いている様子

▲食事の様子

▲参加者集合写真

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

東京電力による魅力発信

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、10月5日～6日の2日間、福島県双葉町で初めて開催された、県内外から美味しいものが集まる双葉町最大級のフードイベント**「ふーふーふー　ふたばフードフェス2024」にキッチンカーを出店し、福島県産「常磐もの赤エイのフィッシュ＆チップス」などを提供した。２日合計で約250食を販売した。**
- また、10月12日、福島県楢葉町の天神岬スポーツ公園キャンプ場で行われた**「天神岬アウトドアフェスティバル」に初めて参加し、福島県産メヒカリや、国産ホタテなどを用意した手ぶらでBBQイベントを開催**した。またキッチンカーを出店し、**国産ホタテ等を使ったメニューを約500食提供した。**

ふーふーふーふたばフードフェス2024

■日程：10月5日（土）～10月6日（日）10:00～16:00

■場所：双葉町産業交流センターおよび周辺エリア

▲会場の様子

手ぶらでBBQ in 天神岬　アウトドアフェスティバル

■日程：10月12日（土）　10:00～16:00

■場所：天神岬スポーツ公園キャンプ場（楢葉町）

▲会場の様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

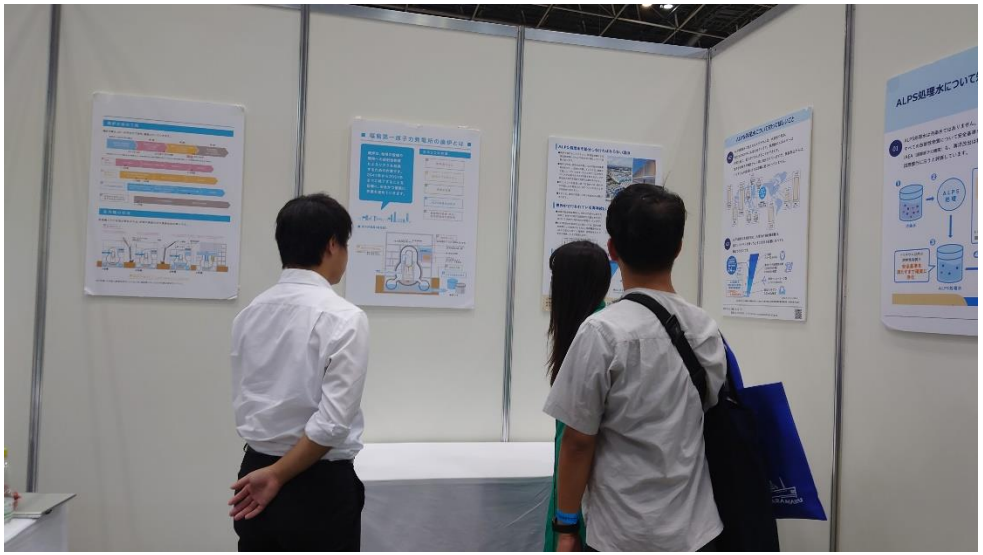
理解醸成

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

各地での説明・意見交換①

- 本年9月26~29日に開催された「ツーリズムEXPOジャパン2024」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

各地での説明・意見交換②

- 本年10月5日に開催された「Kitaizumi Surf Festival 2024」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

各地での説明・意見交換③

- 本年10月19,20日に開催された「LIVE AZUMA 2024」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

廃炉・ALPS処理水の安全性に係る広報①

■ **ALPS処理水に係るモニタリングの結果**を**一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページ**に**バナー広告を掲載**。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

廃炉・ALPS処理水の安全性に係る広報②

■ **「ALPS 処理水について知ってほしい５つのこと」**を**それぞれ１分程度でわかりやすく解説する動画**について**動画広告を展開**。
（動画はそれぞれ画像左下の２次元コードからご覧いただけます。）

１分程度でわかりやすく解説する動画

① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

② トリチウムって何？

③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

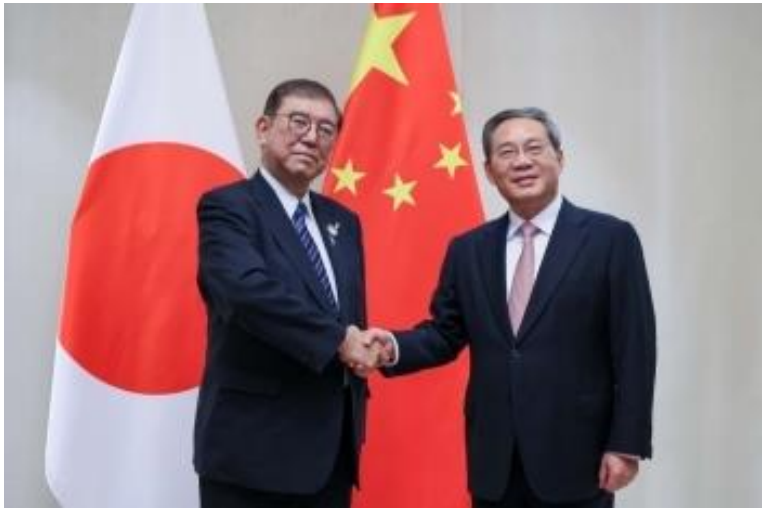
⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

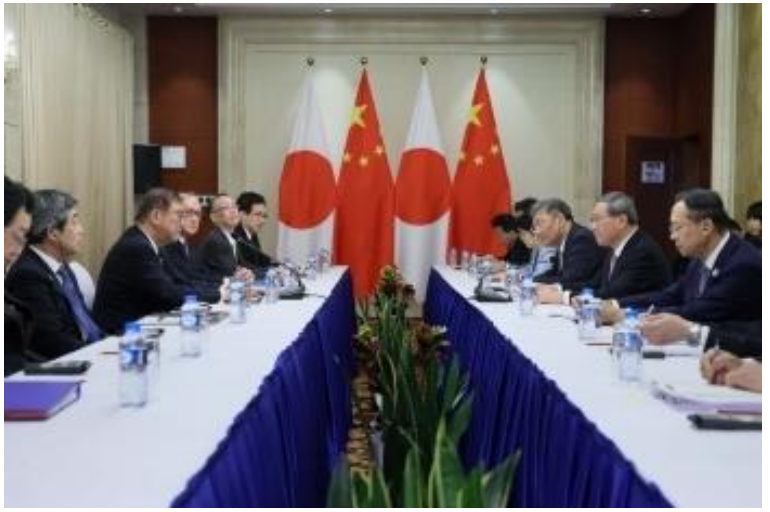
Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日中首脳会談

- 2024年10月10日、ASEAN関連首脳会議に出席するためラオスを訪問中の**石破内閣総理大臣は、李強中国国務院総理と首脳会談を行った**。
- 両首脳は、日中両国は、引き続き、「戦略的互恵関係」を包括的に推進し、「建設的かつ安定的な関係」を構築するという大きな方向性を共有していることを確認するとともに、具体的成果を出すべく、双方が事務当局に指示を出すことで一致し、引き続き首脳レベルを含むあらゆるレベルで重層的に意思疎通を重ねていくことを確認した。
- 両首脳は、**ALPS処理水の海洋放出と日本産水産物の輸入規制に関する両政府の発表を共に評価**し、**石破総理から、日本産水産物の輸入回復を早期に実現するよう求めた**。

（参考）
【外務省報道発表】 日中首脳会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/c_m1/cn/pageit_000001_01139.html





▲日中首脳会談の様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによる日本の海洋試料採取等の確認

- 国際原子力機関（IAEA）では、**日本政府の要請に基づき、海域モニタリングデータの信頼性、更なる透明性の確保の観点から、2014年から分析機関間比較（ILC: Interlaboratory Comparison）を実施**しています。ILCは、東京電力福島第一原子力発電所周辺の海洋試料を、IAEA及び日本の各分析機関が個別に分析を行い、IAEAが分析結果の比較評価を行うものです。
- 2024年10月7日から11日にかけて、**IAEA海洋環境研究所の専門家に加え、IAEAから指名された韓国、スイス及び中国の分析機関の専門家も来日し、試料の採取等の実施状況を確認**しました。
- 9月20日に我が国とIAEAとの間で一致した追加的なモニタリングの一環として、10月15日には、**IAEAの枠組みの下で参加国（韓国、スイス及び中国）の分析機関による採水（具体的には、採水タンクからの分取）を実施**しました。

（参考）
【原子力規制委員会報道発表】 国際原子力機関（IAEA）による日本の海洋試料採取等の確認
https://www.nra.go.jp/data/000474156.pdf
【IAEA報道発表】IAEA Initiates First Practical Steps of Additional Measures at Sea Near Fukushima Daiichi Nuclear Power Station
https://www.iaea.org/press

▲分析機関間比較の活動の様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

国際原子力機関(IAEA)第68回総会におけるサイドイベントプレゼンテーション資料の公表

- 経済産業省は、9月17日に、IAEA総会にあわせて**サイドイベント**「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」**を主催**。
- **サイドイベントのプレゼンテーション資料を経済産業省WEBサイトにて公表**。

サイドイベントの概要

日時：2024年９月17日（火）10時～12時前
テーマ：「東京電力福島第一原子力発電所の廃炉と福島の復興」
日本側出席者：経済産業省、東京電力、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、環境省
IAEA側出席者：原子力安全・核セキュリティ局、原子力エネルギー局

（参考URL）国際原子力機関（IAEA）第68回総会サイドイベントに登壇した者のプレゼンテーション資料
https://www.meti.go.jp/english/earthquake/nuclear/decommissioning/index.html
９月２４日付け、サイドイベントの経済産業省プレスリリース
https://www.meti.go.jp/press/2024/09/20240926004/20240926004.html

archives

Reconstruction and Decommissioning in Fukushima- Side Event of IAEA General Conference 2024 (September 17, 2024)

From September 16 (Mon.) to 20 (Fri.), 2024, the 68th General Conference of the International Atomic Energy Agency (IAEA) held in Vienna, Austria, and also held a side event titled “Reconstruction and Decommissioning in Fukushima” hosted by the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI).
The presentation documents are attached below.

- Leaflet of Side Event(PDF:111KB)
- 1. Overview of Decommissioning process and Fukushima reconstruction (METI)(PDF:3,271KB)
- 2. Current status of the decommissioning at FDNPS (TEPCO)(PDF:3,246KB)
- 3. Strategic Plan of Fuel Debris Retrieval Method for the Decommissioning of the Fukushima Daiichi NPS (NDF) (PDF:1,791KB)
- 4. Progress in Off-site Environmental Remediation in Japan (MOE)
- 5. IAEA activities relating to the discharge of ALPS treated water (IAEA)

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

安全確保

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

海水・魚のトリチウムの迅速なモニタリング

東京電力

○**海水中トリチウムを測定**

○放水口周辺４地点毎日、その他６地点で週２回（放出期間中）、放水口周辺４地点週１回、その他６地点で月１回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○**水産物は年約380検体でトリチウムを測定**

○①放水口の北北東へ約４km、②放水口の南南東へ約５kmの**２地点で、週４回迅速分析を実施**（放出のない期間は週１回）

環境省

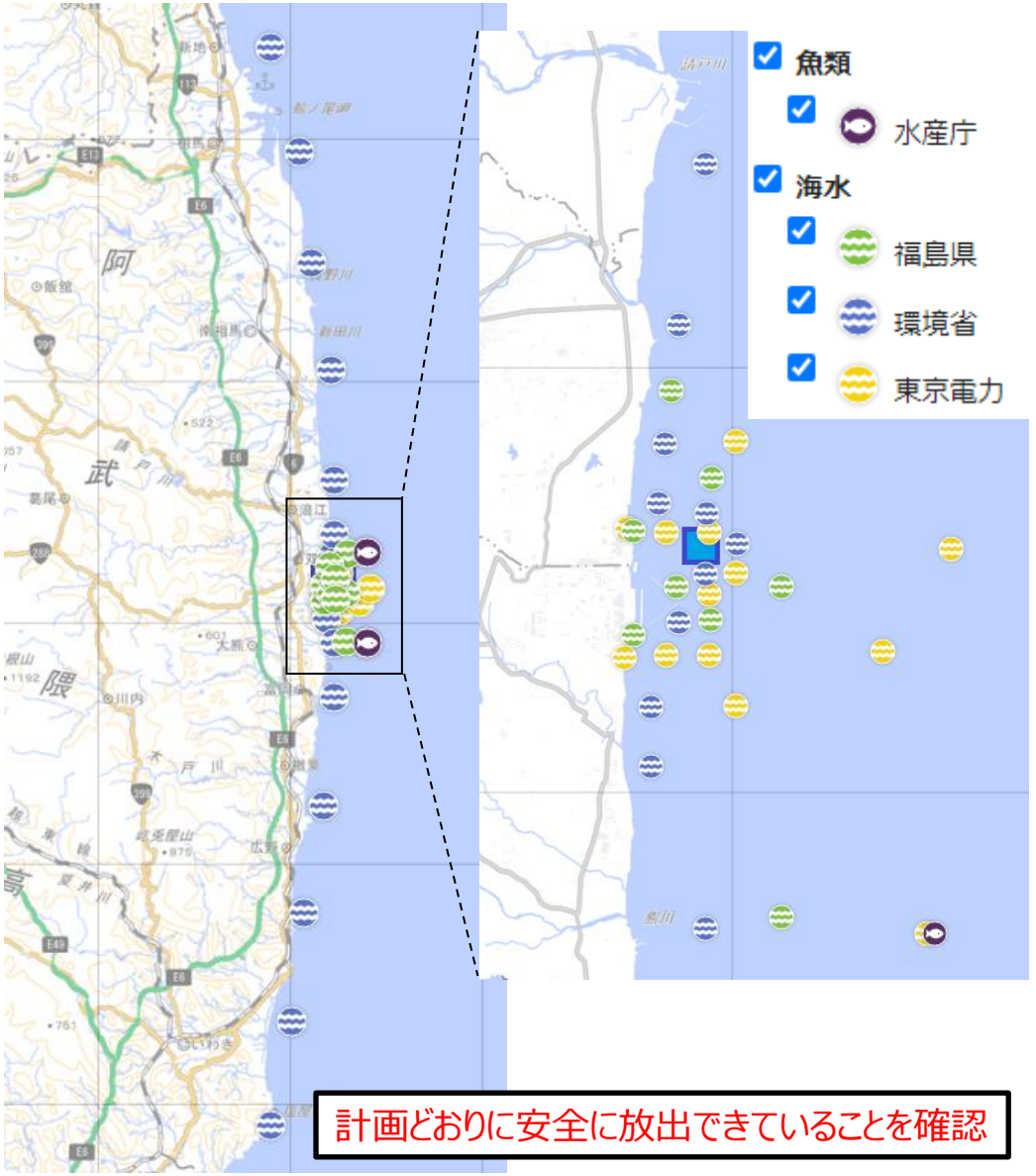
○**海水中トリチウムを測定**

○放出期間中、放水口近傍３地点で期間中２回、その他沿岸20地点で期間中１回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○**海水中トリチウムを精密分析にて測定**。

○20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

東京電力による新聞広告掲載

- 一昨年８月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載**。
- 本年10月は2回掲載しており、今後も**月１～２回の頻度で継続的に実施を予定**。

新聞への広告掲載内容（モニタリング状況のお知らせ・「IAEAによる安全性確認」のお知らせ）

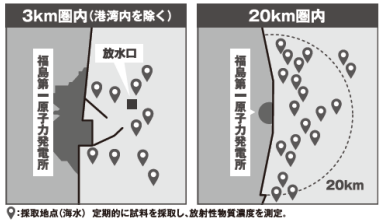
広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2024年10月）

TEPCO

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル／ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

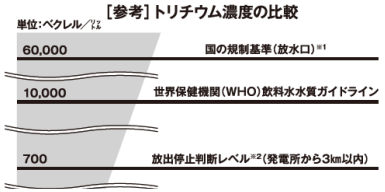


●：採取地点（海水） 定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル／ℓ】（2024年9月1日～9月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム	3km圏内	9.4
	20km圏内	検出せず（<8.7）　【迅速測定*1】
セシウム134*2	3km圏内	検出せず（<0.98）
	20km圏内	検出せず（<0.0014）
セシウム137*2	3km圏内	検出せず（<1.0）
	20km圏内	0.024

「<」の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
*1：トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10
*2：福島県周辺海域における過去の変動範囲は、セシウム137：0.00028ベクレル／ℓ～0.45

［参考］トリチウム濃度の比較



海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/

包括的海域モニ

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子
および水産物の放射性物質濃度も有
詳細は各機関の分析結果を一元的に
https://www.monitororbs.jp/

東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃

広告

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします　Vol.40

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

国際原子力機関（IAEA）※1は、現在も継続して、ALPS処理水の海洋放出に関する安全性を確認しています。

ALPS処理水の取扱いに関する安全性レビューでの評価

2024年7月に公表された海洋放出後2回目となる安全性レビューの報告書では、以下の評価をいただきました。

- **レビューや観察において、関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった。**
- **したがって、IAEAは2023年7月4日の包括報告書で示した安全審査の根幹的な結論を再確認することができる。**

オープニングセッションでのカルーソ調整官（2024年4月23日外務省）

【安全性レビューの概要】

2024年4月23日から26日にかけて、グロッシ・カルーソ調整官を含む6名のIAEA職員と、9名の国際専門家※2が来日し、福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出の取組みの安全性について確認を行いました。

［ALPS処理水に関する特設ページ（IAEA公式サイト（日本語版））］

IAEA International Atomic Energy Agency

当社は、IAEAの科学的根拠に基づく国際安全基準に照らしたレビューのポイントや評価について、引き続き、処理水ポータルサイトで、広く国内外の皆さまへ発信していきます。

◀「処理水ポータルサイト」IAEAの安全性確認のTopイメージ（英語版）
英語のほか、中国簡体字、香港繁体字、台湾繁体字、韓国語でも発信。

Q.包括報告書で示された結論とは？

▶2023年7月に公表された包括報告書では、

- ALPS処理水の海洋放出に対する東京電力、原子力規制委員会、日本政府による関係の活動は、関連する国際的な安全基準に整合的である。
- 東京電力が現在計画しているALPS処理水の海洋放出が人および環境に与える放射線の影響は無視できるほどである。

と結論づけられています。

※1：原子力の安全・平和的利用のために活動する国連関連機関
※2：アルゼンチン、英国、オーストラリア、韓国、中国、フランス、ベトナム、米国、ロシア

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/

IAEAによる安全性確認についてはこちらをご覧ください
▶[ALPS処理水の防護と安全性の評価]
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/safetycheck/#review-point

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.